

さいたま 来ぶらり通信

Contents

さいたま市の神社 1,2

本棚ぶらり テーマ「神社」 3

第24回現代短歌新人賞／パスファインダーってなに? 4

わがまち

はっけん

Sai 発

さいたま市の神社

御朱印ブームなどがきっかけになり、近年旅行や散歩で神社をめぐるものが流行っています。

そこで今回は、さいたま市内にある長い歴史を持つ神社を何力所か紹介します。

それらの神社をめぐるとともに、図書館で地域の歴史について、ぜひ調べてみてください。



さいたま市内に点在する氷川神社

氷川神社は、昔から多くの信仰を集めた神社で、埼玉県内を中心に各地に存在します。

その中でも、大宮の氷川神社(大宮区)、氷川女體神社(緑区)は、武蔵国一の宮と呼ばれ、武蔵国(埼玉県・東京都の大部分と神奈川県の一部の旧国名)第一の鎮守とされています。

大宮の氷川神社は、緑豊かな大宮公園に隣接し、3万坪の広い境内を持つ、平安時代前期には既に記録に残っている古い神社です。所蔵している有名な文化財としては、明治元年(1868年)に明治天皇が大宮の氷川神社に行幸された時の様子を描いた「氷川神社行幸絵巻」があり、埼玉県の有形文化財に指定されています。



氷川神社行幸絵巻

氷川女體神社は見沼とかかわりが深い、古い神社です。一般公開していないものの、多くの文化財を所蔵していることから、「埼玉の正倉院」とも呼ばれます。また、市指定の無形文化財として、秋の農繁期の健康を保護するといわれる「氷川女體神社の名越祓え」が行われています。



氷川女體神社の名越祓え

内谷氷川神社(南区)は、鎌倉の鶴岡八幡宮と同じく、拝殿前に池を配す前池型の庭園様式をもつ神社です。古くから有力な神社だったようで、池からは中世の須恵器(陶質土器)が発掘されています。

内谷氷川神社周辺は、室町時代には鶴岡八幡宮の領地でした。当時の貴重な記録に『鶴岡事書日記』があります。この記録に、現在の内谷氷川神社とされる「氷川宮」が登場します。



クイズの神社？孔雀のいる久伊豆神社

久伊豆神社(岩槻区)は岩槻城の鎮守とされて、歴代の岩槻城主に保護されていました。氷川神社は荒川流域に多く建てられていますが、それに対して久伊豆神社は元荒川流域に多くみられます。越谷市の久伊豆神社や、加須市の玉敷神社が有名です。

久伊豆が「クイズ」とも読めることから、勝負運に強い神社として、クイズ番組の会場になったこともあります。

境内には孔雀が飼われていて、孔雀は「救邪苦」にながるとして、大切にされています。



うさぎの神社の調神社

浦和で最もなじみのある神社の一つに、狛犬の代わりにうさぎがいる神社として有名な調神社(浦和区)があります。

調神社の調の由来は、今から約千八百～二千年前、調神社の場所は調物(貢物)を納める関東一圓の倉庫群であり、そこから発展して調神社として鎮座したという説があります。鳥居がない代わりに、注連縄が張ってあるという他の神社にはない特徴は、その説によると、調物を運ぶ妨げにならないためといわれています。毎年12月に十二日まち(大歳の市の祭り)が行われます。



調神社のうさぎ 写真提供:(公社)さいたま観光国際協会



いろんなご利益、与野七福神

旧与野市域の中央区に、与野七福神と呼ばれる神社とお寺があります。

さいたま観光国際協会ホームページ内「与野七福神」のページによると、それぞれの七福神と対になる神社とお寺が、上町氷川神社(福祿寿)、一山神社(恵比須神)、天祖神社(寿老神)、御嶽社(弁財天)、円乗院(大黒天)、円福寺(布袋尊)、鈴谷大堂(毘沙門天)とされています。

そのうちのひとつ、一山神社では無病息災・家内安全を願う「火渡り」を行う「一山神社冬至祭」が行われています。



さいたま市教育委員会
一山神社冬至祭

今回とりあげた神社以外にもさいたま市にはたくさんの神社があります。

さいたま市図書館では、地域資料コーナーを中心に、さいたま市内の神社について書かれた本も置いてあります。図書館にお越しの際はぜひご利用ください。



P.1～2参考文献

- 『埼玉の御朱印めぐり開運さんぽ旅 御朱印でめぐる、一度は行きたい埼玉の神社と寺132』ぴあ 2020年
- 『浦和市史 通史編1』浦和市総務部市史編さん室／編 浦和市 1987年
- さいたま観光国際協会ホームページ 調神社 <https://visitsaitamacity.jp/spots/20>
- 『調神社 浦和』青木義脩／文・写真 さきたま出版会 1995年
- 武州岩槻総鎮守 久伊豆神社ホームページ <https://www.hisaizu.jp>
- さいたま市ホームページ 文化財紹介 氷川神社行幸絵巻 <https://www.city.saitama.jp/004/005/006/001/017/011/002/p000157.html>
- さいたま市ホームページ 文化財紹介 氷川女體神社の名越祓え <https://www.city.saitama.jp/004/005/006/001/019/012/003/p000487.html>
- さいたま市ホームページ 文化財紹介 一山神社冬至祭 <https://www.city.saitama.jp/004/005/006/001/019/012/003/p000489.html>
- さいたま観光国際協会ホームページ 与野七福神 <https://visitsaitamacity.jp/spots/31>

本棚 ぶらり

テーマ 神社



『御朱印でめぐる埼玉の神社 ～週末開運さんぽ～』

ちぎゅう ある かた へんしゅうしつ

『地球の歩き方』編集室／著
ダイヤモンド・ビッグ社 2019年



御朱印をいただくには？御朱印めぐりのマナーとは？

御朱印めぐりを始めたいけれど、疑問や不安がある…そんな方にお勧めできるのが本書です。埼玉県で御朱印をいただくことができる神社がエリア別、御利益別に紹介されており、ニーズに合わせて調べることができます。また、どのような御朱印がいただけるのか写真付きで紹介されているので、こだわりたい方の御朱印めぐりにも役立ちます。さいたま市内の神社も紹介されていて、境内の摂社・末社(小さな祠)を含め、たくさんの神様をまわることができます。日帰りのモデルプランや「プチ鉄道巡礼」も紹介されています。

神社の見どころに関する口コミや御朱印だけでなく、お守りや絵馬などの情報も掲載されており、御朱印めぐりを始めるのにぴったりな1冊です。

『日本人のための神道入門』

たけみつまこと

武光誠／共著 グレイル／共著
宝島社 2007年



「神道」という言葉を耳にしたことはありますか？

「神道」では、「八百万」といわれるほど多くの神がいて、人々の願いを叶えてくれると考えられています。

実は日常生活の中にも、神道が由来となっている行事等が多々あります。例えばお正月です。古くは、正月は先祖の霊魂を迎える祭りだったそうです。当初は、先祖の霊は豊作をもたらす「歳神」と呼ばれていました。そして、元日に年が変わることから「年神」と呼ばれるようになり、現在の新年を祝う意味合いが強くなりました。

また、高度経済成長期にテレビや車、クーラーは「三種の神器」と呼ばれていました。この「三種の神器」も、本来は神話上の宝物を指す言葉です。

本書では、神道の考え方、神話の流れなどが、図を用いてわかりやすく紹介されています。本書を読むことで、日常に根付いた神道を身近に感じてみてはいかがでしょうか。

『イラストでよくわかる 日本の神様図鑑』

ふるかわのぶひろ

古川順弘／テキスト
カワグチニラコ／イラスト
青幻舎 2017年



お寺には仏像があるのに、なんで神社には神像がないの？こんな疑問を抱いたことはないでしょうか。仏像と違って、日本の神々には細かい造形の基準が原則としてありません。しかし神々には、語り伝えられてきた神話・伝説にもとづき固有のキャラクターがあります。本書では、神話や伝説の場面を織り交ぜながら、「古事記」、「日本書紀」などの神話世界の「天つ神」と「国つ神」、民間で篤く信仰されてきた人気の神様、周囲のものを何でも神格化したために生まれた不思議な神様など、100を超える日本の神様たちを、楽しくわかりやすいイラストと簡潔なテキストで紹介しています。神様の個性や性格のほか、ご利益や祀られている神社も掲載しており、神社めぐりにも最適な神様ガイド図鑑です。

『日本全国神仏修行入門』

あさくらかずよし

朝倉一善／著
講談社 2008年



本書は、父の死をきっかけに神仏の智慧、とくに修行の知恵に興味を持った筆者が、関東地方を中心に17の寺社を選び、身近なお寺や神社でできる修行をリアルに紹介している体験記です。修行と一言で表していますが、誰でも自由に参加できる30分間の読誦会(読経を読む会)や、浄心行(瞑想と唱題行)、護摩修行、写仏・写経の会、お百度参りといった一時間前後で経験できるものから、一泊二日から最長一週間の泊まり込みで、坐禅、水行、断食、火渡りなどを行う本格的なものまで、様々な修行を紹介しています。他の修行体験者の経験談も豊富に載っており、修行が身近に感じられます。筆者は、修行は日常をはなれてひととき静寂な時間をもつことで、ストレス社会を生きる現代の読者にとって、最も合理的な自己回復の法であると語っています。まずは自分に合ったものを探して、体験してみてはいかがでしょうか。



ちょこっとゆかり文学クイズ

Q: 松本清張「神々の乱心」にはさいたま市の神社が登場します。どこの神社でしょう？

第24回 現代短歌新人賞

さいたま市が主催し、日本現代短歌界の振興とさいたま市民の文学活動の充実を目的に、歌壇に新風をもたらす歌人を表彰してきた「現代短歌新人賞」。その第24回受賞作が菅原百合絵さんの『たましひの薄衣』(書肆侃侃房 2023 年刊)に決まりました。

「作者は 1990 年生まれの若い歌人だが、該博な知識と深い教養を備えて、古典の様式美の世界の新鮮な構築に成功している。美意識に溺れることなく、現実を率直、端的にすくい上げ、ときにユーモラスですらある。」
(選考委員長講評 さいたま市ホームページより)



『たましひの薄衣』

すがわら ゆりえ
菅原百合絵／著

しよし かんかんぼう
書肆侃侃房

2023 年

受賞作品や選考過程については、雑誌「歌壇」2024 年 3 月号(本阿弥書店)に記事が掲載されました。さいたま市図書館でも所蔵していますので、ぜひご覧ください。



パスファインダーってなあに？



パスファインダー (pathfinder) とは、ある特定のテーマについての資料や情報の探し方をまとめたリーフレットのことで、資料・情報を探すための「道しるべ」、「道案内」などとも言われます。

「さいたま市の文化財について調べたいけれど、何を見ればいいのだろう？」
「自分の住んでいる地域について、どんな資料があるのか知りたい！」

そんな時、あなたの調べものの役に立つのがパスファインダーです。
パスファインダーでは、そのテーマに関する図書、雑誌、辞書、Web サイトなど、図書館員が厳選した情報源がリストアップされ、一目でその情報について分かるようになっています。
紹介されている資料には、図書館の所蔵情報(請求記号や配架場所など)もつけられているため、パスファインダーを頼りに、自分で資料を探すこともできます。

あるテーマに関する本を幅広く紹介するブックリストとは違い、調べ方のナビゲーションをしているものがパスファインダー。
パスファインダーを使って、自分自身で情報を探す方法を身につければ、別のテーマで調べたい時にも、「こういう手順で調べればいいんだ！」と、応用を利かせて調べものを行うことができます。

まずは、さいたま市図書館ホームページから各図書館で作成したパスファインダー一覧を覗いてみてください。
パスファインダー一覧(さいたま市図書館)
<https://www.lib.city.saitama.jp/contents?2&pid=131>



ちょこっとゆかり文学クイズの答え
(問題はP.3にあります)

A: 調神社(下巻179ページ)

編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<https://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <https://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下の二次元コードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	馬宮図書館 625-8831	与野図書館 853-7816	桜図書館 858-9090
東浦和図書館 875-9977	三橋分館 625-4319	与野南図書館 855-3735	大久保東分館 853-7100
美園図書館 764-9610	春野図書館 687-8301	西分館 854-8636	北図書館 669-6111
大宮図書館 643-3701	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523	宮原図書館 662-5401
桜木図書館 649-5871	七里図書館 682-3248	岩槻駅東口図書館 758-3200	武蔵浦和図書館 844-7210
大宮西部図書館 664-4946	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665	南浦和図書館 862-8568

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町 11-1 TEL 048-871-2100 FAX 048-884-5500

★★編集後記★★

元号が令和になった 2019 年 5 月 1 日、令和初日の御朱印を求めて大宮の氷川神社には 900 人を超える列ができ、御朱印を頂けるまでに約 4 時間かかったそうです。



もっと身近に、
もっとしあわせに



さいたま来ぶらり通信は 2,000 部印刷し、一部あたりの印刷経費は 17 円です。